

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Factor structure of the Parenting Stress Index-Short Form used in the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

エコチル調査で使用する育児ストレスショートフォームの因子構造

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Scientific Reports

年: 2022 DOI: 10.1038/s41598-022-23849-8

筆頭著者名: 畠山 岳大

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

本研究では、育児ストレス研究で用いられている 19 項目の育児ストレスショートフォーム(PSI-SF)の因子構造を、妥当性および信頼性の評価を通して明らかにすることを目的とする。

方法:

エコチル調査参加者(母親)の産後 1 歳半時と 2 歳半時のデータ(n= 79,282、75,831)を用いた。エコチル調査で使われている PSI-SF に最も適した因子構造を探索的因子分析(EFA)で探り、先行研究で認められた因子構造と EFA の結果についてモデル適合度を確認的因子分析で検証した。因子構造の信頼性の評価をピアソンr係数の比較と因子得点の経時的比較によって行い、妥当性をクロンバック α 係数の算出・経時的比較によって評価した。

結果:

各因子分析の結果より、エコチル調査で使われている 19 項目 PSI-SF について 3 因子構造が認められた。また、先行研究で認められている 2 因子構造と比べ、3 因子構造の方が 19 項目 PSI-SF へのモデル適合度、信頼性、妥当性ともに高かった。

考察(研究の限界を含める):

第 1 因子は、“親自身のストレス”、第 2 因子は“子どもに関するストレス”と、PSI-SF 原版で認められている因子と同じだったが、第 3 因子は“配偶者”と、配偶者(夫)との関係や協力に関する因子と、19 項目 PSI-SF 独自の特徴が見られた。夫の協力や育児参加は、育児中の母親の精神健康に影響を与えることから、既存の PSI-SF に“配偶者”要因を含めた育児ストレス診断は、より包括的な診断結果を与える。本研究の限界として、19 項目 PSI-SF において、“配偶者”因子は2つの変数のみで構成されており、より信頼性のある尺度として使われる場合、3 つ以上の質問項目を含んだ形に修正される必要がある点が挙げられる。

結論:

本研究の結果は、3 因子構造が PSI-SF に最も適しているという先行研究の結果を支持するものであった。